

地域の創り手育成、小規模だからできる」

小中一貫・まつのやま学園で第10回全国サミット

9年間の連続した学びを重視し子どもたちの成長を促す小中一貫教育。地域に学校を残したい住民の願いを受け、十日町市では初となる小中一貫校・十日町市立まつのやま学園（渡邊進学園長、70人）。開校9年目の同学園で5年ぶり2回目の開催となる「第10回小中一貫校小規模校全国サミット」は10日

に開き、全国から教育関係者や地元住民など合わせて200人余が来校。午前中は全学級で公開授業を行い、午後はシンポジウムを開催し教師による研究発表を実施。児童、生徒が課題に向き合う姿や教師の向き合い方など、「地域と共に作る小中一貫校」は参観者の関心を呼んだ。



地域と連携し行事などを行う（5月の山菜採り）

まつのやま学園は、過疎化や少子化による児童数減少により小中学校が一緒にすることで学生数を確保し、松之山に学校の存続させたいという地域の切実な願いにより2017年に開校。小中学校の連携を強化し、中1ギャップの軽減や9年間を通じた教育課程を編成し柔軟なカリキュラムで指導ができる。

同学園は「生き生きした子ども」を育むことを教育目標にあげ、1年生から4年生は人間性の基礎を培う『ホップ期』、5年生から7年生は思考力を高める『ステップ期』、8、9年生を社会との関係を明らかにする『ジャンプ期』とし、9

年間の連続性・継続性を大切に教育活動を推進。さらに全学年で英語でのコミュニケーション能力を高める「ことば」を大切にした『E+タイム』学習や松之山の伝統文化に学ぶ『ふるさと学習』、社会人から直接学ぶ生き方学習を推進する『まつのやまタイム』は、地域のティーチングサポーターと協働し取り組んでいる。ステップ期では中学教員が、教科の専門性をいかし小学部の一部を担当する「乗り入れ授業」制度を導入し中学部の教科担任制への不安解消を図っている。

特色ある教育を多くの子どもたちが受けられるよう、特任校化で学区外・区域外就学を受け入れる

『雪里留学』を導入。遠方からの来訪で親元を離れ生活する「藤倉ハウス」入寮は小学5年生から受け入れている。これまで受け入れた雪里留学生は14人。

ジャンプ期が中心となり、1～9年生全員で考え一緒に活動する「つくし会」（児童生徒会）活動や部活動は、自分のやりたいことを探究する大切な時間とする。5年生から参加可能。森の学校キヨロロや大蔵寺キャンプ場、松之山スキー場など地域の専門家から指導を受けるなど、地域と連携した教育活動を重ねる。渡邊学園長は「子どもたちは松之山の自然に抱かれ地域と共に歩んできた。小規模校だからこそできること、届けられる希望があると信じこれからも歩み続けたい」と話している。